

# めぐみイエス・キリスト教会

2025年4月13日(日)第二主日レント礼拝

午前10時より

週報「通算第754号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌355「主と共に歩む」 p. 568

【交読文】 No.53 ルカの福音書22章(抜粋) p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌101「イエスよ十字架に」 p. 141

【使徒信条・主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「主を誉め讃え続けよ」

【聖書朗読】 **マタイの福音書27章15節～26節(p. 60下段)**

【礼拝説教】 《主イエスとバラバ・イエス》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(マタイの福音書27章15節～26節)

27:15 ところで、総督は祭りのたびに、群衆のため彼らが望む囚人を一人釈放することになっていた。

27:16 そのころ、バラバ・イエスという、名の知れた囚人が捕らえられていた。

27:17 それで、人々が集まったとき、ピラトは言った。「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」

27:18 ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことを知っていたのである。

27:19 ピラトが裁判の席に着いているときに、彼の妻が彼のもとに人を遣わして言った。「あの正しい人と関わらないでください。あの人の

ことで、私は今日、夢でたいへん苦しい目にあいましたから。」  
27:20 しかし祭司長たちと長老たちは、バラバの釈放を要求してイエスは殺すよう、群衆を説得した。  
27:21 総督は彼らに言った。「おまえたちは二人のうちどちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」  
27:22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれているイエスを私はどのようにしましょうか。」彼らはみな言った。「十字架につける。」  
27:23 ピラトは言った。「あの人がどんな悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につける。」  
27:24 ピラトは、語る事が何の役にも立たず、かえって暴動になりそうなものを見て、水を取り、群衆の目の前で手を洗って言った。「この人の血について私には責任がない。おまえたちで始末するがよい。」  
27:25 すると、民はみな答えた。「その人の血は私たちや私たちの子どもらの上に。」  
27:26 そこでピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した。

### ●ポイント1.ヨハネの福音書における平行記事から

#### ※ヨハネの福音書18章2節～3節「ゲッセマネの園」(新約p.221下段)

18:2 一方、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスが弟子たちと、度々そこに集まっておられたからである。

18:3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやパリサイ人たちから送られた下役たちを連れ、明かりとたいまつと武器を持って、そこにやって来た。

### ●ポイント2. 国主ヘロデ・アンティパスと主イエス

#### ※ルカの福音書23章6節～9節「ヘロデの宮殿にて」(新約p.169上段)

23:6 それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、

23:7 ヘロデの支配下にあると分かると、イエスをヘロデのところに送った。ヘロデもそのころ、エルサレムにいたのである。

## ◎先週のメッセージ【五千人の給食】

《主イエスは弟子たちと共にベツサイダに退かれました。しかし、群衆は着いて来ました。主は神の国について教え、皆癒されたのです。そして、日が傾き始め夕方になりました。弟子たちは来て言います。「群衆を解散させて下さい。そうすれば、彼らは周りの村や里に行き、宿をとり、何か食べることができるでしょう。」

「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」

「私たちには五つのパンと二匹の魚しかありません。」

これは、アンデレが連れて来た一人の少年が持っていた、当時の一般的なお弁当であったと言われています。主は言われます。

「人々を、五十人ぐらいつ組にして座らせなさい。」

男性の人数は五千人と書かれていますが、女性と子供たちを数えますと、少なくとも二万人の人々がいたと言われています。

主イエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、神を褒め称えてそれを裂き始めました。いったい、どれほどの回数にわたって、主はパンと魚を裂かれたのでしょうか。また、この時には、なぜか、かごがあったことが分かります。十二弟子たちは、それぞれのかごに、主から裂かれたパンと魚を受け取って、群衆に配りました。そして、人々は皆、食べて満腹したのです。この奇跡は、弟子たちが、主イエスをさらに信じる為になされたものです。つまり主は旧約聖書の「エリヤの奇跡」を再現されたのです。その奇跡とは、「シドンのやもめの家にあった、かめの中の粉は尽きず、壺の中の油はなくなる」というものでした。

また、主イエスは、「山上の垂訓」においても約束をされています。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」と。私たちの父なる神様は、私たちの必要をすべて知っておられます。主は必ず与えて下さいます。》

## ◎お知らせ

※次回はイースター礼拝となります。2025年4月20日午前10時より、行ないます。なお、その日には、愛餐会は行なわない予定です。